

歴史・文化的まち並み再生補助金 事後評価シート
岸和田城周辺地区

平成24年3月

大阪府 岸和田市

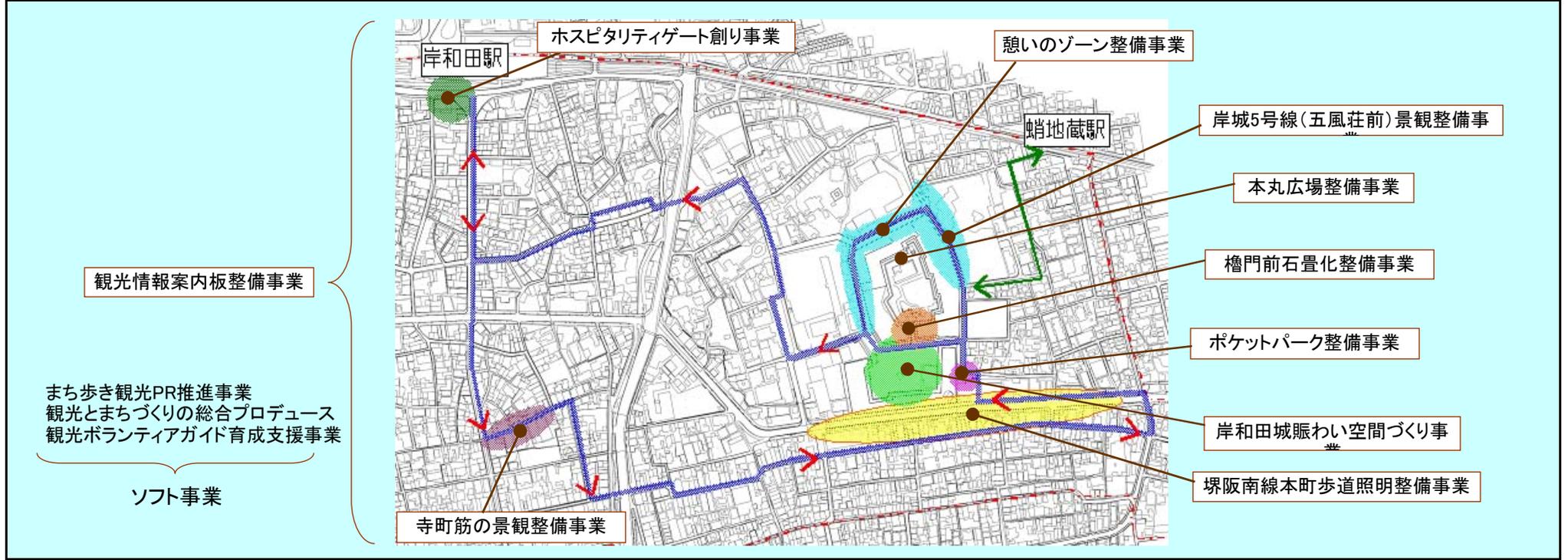
様式3-1 評価結果のまとめ

市町村名	岸和田市			地区名	岸和田城周辺地区		面積	72ha				
補助期間	平成21年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	410.1百万円						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業(細項目) 観光案内所設置事業、観光交流センター整備事業、二の丸広場芝生化整備事業、ポケットパーク整備事業、観光情報案内板整備事業、まち歩き観光PR推進事業、観光とまちづくりの総合プロデュースを実施、観光ボランティアガイド育成支援事業、堺阪南線本町歩道照明整備事業、憩いのゾーン整備事業、寺町筋の景観整備事業、櫓門前の石畳化整備事業、岸城5号線(五風荘前)景観整備事業										
	当初計画から削除した事業	事業名(細項目)	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	新たに追加した事業	本丸広場整備事業	地元町会等と協働でまちづくり協議会を立ち上げ、具体的な事業推進について協議を進めたところ、城周辺の整備を進めていく中で、この機会に、現在未活用の本丸広場の天守閣南側をアジサイなど草花あふれる空間として整備することで、城の魅力向上を図ることとなったため			平成23年2月時点では工事中の為、指標に対する影響は不明。しかしフォローアップ時に検証予定であり、地区の魅力向上を図る整備であるため、まちの賑わいに関する指標1～5に貢献すると思われる。						
		地域創造支援事業(石畳と淡い街灯まちづくり連携PR事業)	石畳事業実施6地区が連携して広域的にPR等を行い、地区への集客と活性化を図るため。			地区への来街者数増加に貢献している。						
2) まちづくり実施計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
			基準年度	目標年度	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	地区内主要観光施設入込者数	人	94,500	H20年度	120,000	H23年度	262,000	○	あり なし	ポケットパーク整備等、施設近辺のハード整備によるエリア魅力向上、及びまち歩き観光PR推進事業(地元商店街協働イベント等も含む)により来場・来館者数の促進につながった。	-
	指標2	岸和田城の外国人入場者数	人	142	H22年	184 (+30%増)	H24年	90	△	あり なし	● 東北地方太平洋沖地震に伴う福島原子力発電所事故の風評被害による影響で関西国際空港における国際線の外国人旅客数が減少した為、目標値が達成できなかったが、城周辺整備により岸和田城入場者数自体は従前と比べて17%増加し一定の効果があった(23年度岸和田城入場者数見込み:37,899人)。	平成25年1月～3月
	指標3	岸和田駅・蛸地蔵駅の利用者数	千人	2,009	H20年	2,050	H23年	1,846	△	あり なし	● 市内の人口減少及び東岸和田と尾生・久米田地区の開発に伴う南海電車利用者数の減少により、両駅の利用者数が減少しているが、地区内主要観光施設入込者数や市営駐車場のバス利用台数が増加していることから、地区内への観光客は増加しておりにぎわいは創出されている。	平成25年6月30日
	指標4	駐車場のバス利用台数	台	198	H20年度	220	H23年度	390	○	あり なし	ポケットパーク整備等、駐車場近辺のハード整備によるエリア魅力向上により市営駐車場のバス利用台数が高まった。	-
指標5	ボランティアガイドの利用者数	人	1,000	H20年度	2,000	H23年度	10,000	○	あり なし	● ポケットパーク整備等、ハード整備によるエリア魅力向上、及びまち歩き観光PR推進事業(地元商店街協働イベント等も含む)により観光客数が増加したため、ボランティアガイドの利用者数向上につながった。	-	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
			基準年度	目標年度	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	その他の数値指標1	ボランティアガイドの登録者数	人	33	H21年度	54			ポランティアガイド養成講座への支援、及びポケットパーク整備等、ハード整備によるエリア魅力向上、及びまち歩き観光PR推進事業により、地域の人たちのボランティアガイドへの関心が高まり、登録者数の増加につながった。	-		
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況	整備前と比較して、岸和田駅・蛸地蔵駅の周辺商店街から、「観光マップを持ち歩いている人が増えている」「岸和田城やその周辺の観光施設への行き方を探ってくる人が増えている」とのコメントを、多数頂けるようになった。また、岸和田城周辺や岸和田市の歴史的資源に関する観光課への問合せが増えており、実際まち歩きを楽しんだ観光客の方からは「岸和田の歴史的資源の豊富さに驚いた。」とのコメントを、多数頂けるようになった。											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等					
	住民参加プロセス	①岸和田城周辺まちづくり協議会(岸和田市、地元町会長、校区長、商工会議所、観光振興協会、ボランティアガイド、城址保存会、TMO、本町のまちづくりを考える会、で構成)を発足させて、各事業に対する意見を伺い反映させた。			まちづくり実施計画に記載し、実施できた			● 今後も当協議会を必要に応じて開催し、地元住民の意見を取りまとめ、まちづくりやソフトイベントに反映させる。				
		②観光情報案内板整備事業の委託業者の選考を、コンペ方式で実施しまちづくり協議会による審査において決定した。			まちづくり実施計画に記載はなかったが、実施した							
					まちづくり実施計画に記載したが、実施できなかった							
持続的なまちづくり体制の構築	ボランティアガイド養成講座への支援を行い、市と観光振興協会とボランティアガイドの協働でウォークイベントを実施した。			まちづくり実施計画に記載し、実施できた			● 新たな来訪者の促進を図るため、今後も継続的にガイドの養成支援を行っていく。 ● まち歩き周遊キャンペーンで実施した、市と観光振興協会とガイド共催のウォークイベントを今後も継続して実施する。					
				まちづくり実施計画に記載はなかったが、実施した								
				まちづくり実施計画に記載したが、実施できなかった								

様式3-2 地区の概要

岸和田城周辺地区(岸和田市) 成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値		
大目標 地域資源を磨き、つなぎ、内外に広く発信しながら地域に暮らす人々と来訪者が交流する賑わいのあるまちづくり。 目標① 既存の魅力を活かし「まち歩き観光」「立ち寄り観光」が楽しめる環境整備による多くの人が訪れるまちづくり 目標② 関西空港に近いという地域特性を活かし、外国人の来訪を促進するまちづくり 目標③ 商工会議所や観光振興協会、ボランティアガイドなど多様な人々の参画と来訪者との交流による賑わいあるまちづくり	地区内主要観光施設入込者数	単位：人	94,500	H20年度	120,000	H23年度	262,000	H23年度
	岸和田城の外国人入場者数	単位：人	142	H22年	184人(+30%)	H24年	90	H23年度
	岸和田駅・蛸地蔵駅の利用者数	単位：千人	2,009	H20年	2,050	H23年	1,846	H23年度
	駐車場のバス利用台数	単位：台	198	H20年度	220	H23年度	390	H23年度
	ボランティアガイドの利用者数	単位：人	1,000	H20年度	2,000	H23年度	10,000	H23年度



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 岸和田城及びその周辺に集積する地域資源を磨き、つなぐことにより「まち歩き観光」「立ち寄り観光」が楽しめる環境に整備され来訪者増加につながった。 まち歩き観光PR推進事業において、市と観光振興協会・ボランティアガイド・地元商店街が協働してソフトイベントを行うことにより、市と各種地元団体が協働して来訪者を迎える土台作りができた。 まちづくり協議会の設立、ボランティアガイド養成講座の支援、板塀プロジェクトの支援等により、地元住民のまちづくりへの意識が高まり、地域資源の再認識につながった。 関空での本地区PRだけでは外国人観光客数の増加は見込めなかったため、現行の手法とは異なる、更なる外国人観光客数へのPR活動方法の検討が必要となった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度を活用し、観光交流センターを適切かつ効率的に運営管理し、地域住民・観光客との交流による地域の活性化や、和菓子や水なすなどの特産品等の岸和田ブランド発信の拠点となるよう努める。 市が観光案内所を適切に運営管理し、岸和田城やだんじり会館、ほんまちの街並み、大威徳寺など、数ある地域資源の魅力発信や、来訪者へのまち案内の場となるよう努める。 今回の事業によりつくられたハード設備を活かしたソフトイベントの実施を行い、岸和田城をはじめとした既存の地域資源も含め、その魅力を、市HPや岸和田観光情報サイト、及びポスター・パンフレット・マップ等の配布により、市内外に発信していく。 まち歩き観光PR推進事業によって高まった「各種地元団体の来訪者を迎える意識」を持続させるべく、引き続き市と各種地元団体が協働してソフトイベントを実施する。 多言語マップ・多言語対応した案内板の存在等を、関空側はもとより、関西広域機構や大阪コンベンション協会などと連携し、旅行会社への情報提供など効果的なプロモーションと情報発信に取組み、外国人来訪者増加につなげる。 外国人旅客数の評価指標につき、岸和田城だけでなく、だんじり会館や市内宿泊施設の外国人客数も含めて総合的に評価する。また、当事業により完成する観光案内所において外国人案内数を測定する等、指標の充実化に努め、フォローアップ時及び外国人来訪者の促進を図るプロモーション活動の際にデータとして活用する。 難波や関西空港などの発地における観光PRを実施し、岸和田駅・蛸地蔵駅の利用者増加に努める。岸和田駅・蛸地蔵駅において城周辺地区へ乗客を誘導するようなPRを行う。 当エリアは、岸和田市景観計画において「旧市街・歴史景観区」に指定されており歴史的空間の保全・整備に努めることを方針としている。この計画に沿って、周辺景観に配慮すると同時に、まちづくり協議会等地元住民の意見も取り入れてまちづくり・景観形成に取り組むよう努める。